

## 第1学年 特別の教科 道徳 学習指導案

場 所 1年3組教室

児 童 男17名 女17名 計34名

指導者 石 井 佳 織

- 1 主題名 あたたかいところ（親切，思いやり）  
教材名 はやとのゴール（『みんなのどうとく 1ねん』学研教育みらい）

### 2 児童について

児童は、徐々に小学校生活にも慣れ、同年代の友達だけでなく、上級生とも接することで新しい人間関係を築き始めている。1年生の発達段階から、自分中心の考え方で行動することが多く見られるが、小学校生活の中で様々な人と接することで、相手の気持ちに気付き、友達の仕事を手伝う姿も見られるようになってきている。

幼稚園や保育園に通っていたころは、自分よりも小さな友達と接することが多かったが、入学当初からは6年生のお世話になることが多く、上級生に親切にしてもらうことが日常化している。

そこで、親切という行為のよさを学ぶことで、親切にしてもらうことのうれしさや喜びを実感したり、親切にすることのすがすがしさに気付いたりすることができる機会としたい。そして、相手のことを思いやり、相手の喜びを自分の喜びと感じられるような児童を育てていきたいと考える。

### 3 指導構想

#### (1) 価値について

本時のねらいとする価値は、低学年の内容項目B－(7)「身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。」を内容としている。これは、中学年の「相手のことを思いやり、進んで親切にすること。」、高学年の「誰に対しても、思いやりの心をもち、相手の立場に立って親切にすること。」につながっていくものである。

児童が身近な人たちと望ましい人間関係を築いていくためには、相手の気持ちや立場を自分のことのように考え、相手が困っていたらどうしたらよいか、自分がどんなことをしたら喜んでくれるのかを考えながら親身になって行動することが大切になってくる。相手を思いやり、その思いを親切な行動で表していくことで、身近な人たちと互いに助け合い、支え合える人間関係を築いていくことにつながっていく。自分が温かい心で接すれば、相手の心も温かくなる。そうなれば互いの心の結びつきも強くなる。心の結びつきが強くなれば、相手が困っていたときに黙って見ていられなくなり、親切な行為が生まれる。

目に見えない心の温かさを、親切という目に見える行為で表すことの大切さを学ぶことは1年生の児童にとって意義深いことである。

#### (2) 教材について

本教材「はやとのゴール」は、困っている人を見過ごさずに手を差し伸べる主人公の経験を通して、親切にされることの嬉しさや、身近な人に親切にすることの大切さを実感することのできる教材である。

主人公のはやとが、サッカーをして遊んできた帰り道に、重い荷物を持った近所のおばあさんに出会う。大変そうな様子を見て見過ごせなくなり、「一つ荷物を持ちましょうか。」と声をかける。声をかけられたおばあさんが笑顔になり、お礼を言われたはやとも、笑顔になったという内容である。

主人公の行為から、重い物を持っている人を見かけた時に、「大変そうだな。」と思うことにとどまらず、声をかける勇気や、手を差し伸べる優しさ、そして相手の喜びが自分自身の喜びにもなるということ学ぶことができる。そして、よりよい人間関係を築く上で、相手を思いやることが、相手にとっても自分にとっても心地よいものであることに気付くとともに、自己の生き方についての考えを深めることのできる教材である。

### (3) 指導にあたって

児童の深い学びの姿を次のように捉え、その実現に向けて、以下のような手立てをとる。

#### <深い学びの姿>

- ・ 困っている人を見かけた時、黙って見過ごさずに、相手のことを自分のことのように考えて思いやりのある行動をしようとする姿

#### 視点1 深い学びを実現する指導計画

- 年間で3回行われる「親切、思いやり」の内容項目の学習について、道徳性を構成する諸様相である道徳的態度、道徳的心情、道徳的判断力を位置付け、系統性の充実を図りながら指導にあたる。そのことで、親切にするという行為のよさや、親切にした時のすがすがしさ、といった様々な視点からこの内容項目について深め、道徳的諸価値の理解をもとに自己の生き方について考えることができるようにする。

#### 「親切、思いやり」の指導計画

(6月)「はやとのゴール」 【本時】	(10月)「はしの上のおおかみ」	(12月)「ないちゃった」
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 相手のことを考えて、優しく接することの大切さが分かり、親切な行為をしていこうとする態度を養う。(道徳的態度)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 親切にしたときの気持ちよさを知り、誰に対しても思いやりの心をもって接しようとする心情を育てる。(道徳的心情)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ たとえ自分は悪くないと思う時でも、相手の気持ちを考えて受け入れることで、お互いにより関係になることが分かり、身近にいる人への接し方を考えることで道徳的判断力を育てる。(道徳的判断力)</li></ul>

#### 視点2 問題解決的な学習展開の充実

##### (1) 主体的な学びを促す手立て

###### 【きづく(導入)】

- ・ 「親切にされた方が嬉しいのはもちろんだが、親切にした方はどんな気持ちか。」と、問い返すことを通して、問題意識を共有できるようにする。

###### 【ふかめる(展開)】

- ・ 重い荷物を持つおばあさんに声をかけようかと迷いながらも、声をかけた時の主人公の気持ちについて考え、児童が自分自身と重ねながら考えることができるように発問を吟味・精選することで、主人公の行為のよさを実感し、自分もそうありたいという意欲をもつことができるようにする。

###### 【みつめる(終末)】

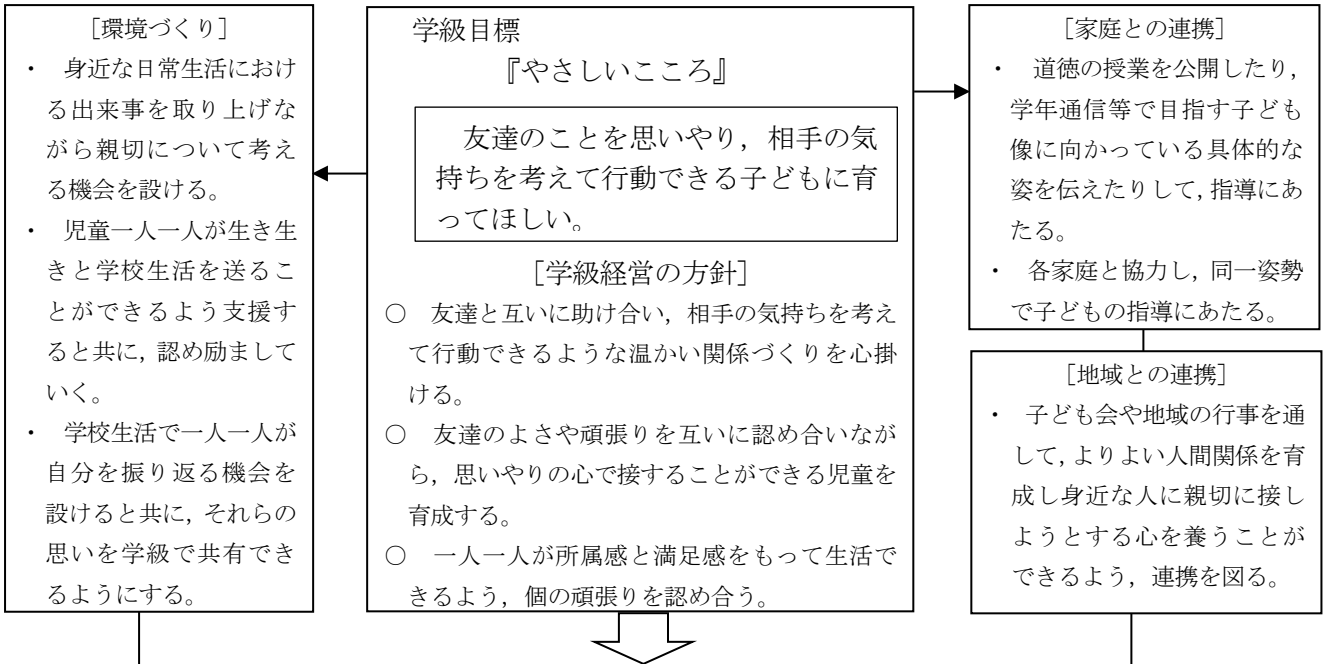
- ・ 本時の学習で大切だと思った考えや、これからどのような思いや願いをもって生活していきたいかという視点で振り返りに書くことで、自己の生き方について考えを深めることができるようにする。

##### (2) 対話的な学びを促す手立て

- ・ 児童から出された様々な考えを板書で整理したり、関連付けたりしながら話し合いをコーディネートすることで、児童が、自分の考えの根拠を基に話したり、友達の考えを聞いたりして交流し、互いの考えのよさや違いに触れながら自己の考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- ・ 自分だったらどうかについて考えを出し合い、ペアで話し合う場を設定することで、道徳的価値を実行することの難しさと尊さを自分事として捉えることができるようにする。

4 「親切、思いやり」の指導計画

教師の願い



【目指す子ども像】  
相手の気持ちを思いやり、主体的に親切な行為をしようとする子ども

道徳科の学び

月	特別活動・行事	道徳科の学び	各教科	日常指導
4	1年生を迎える会 上級生へ親しみをもち学校生活を楽しまうとする態度を養う。	「はやとのゴール」(本時) ・相手のことを考えて、優しく接することの大切さが分かり、親切な行為をしていこうとする態度を養う。(道徳的態度)	体育「走の運動遊び」 運動に進んで取り組み、きまりを守って仲良く運動をし、勝敗を受け入れ協力して活動ができるようにする。	朝のちょボラタイムや給食、清掃活動を通して、互いに協力することの大切さについて、自分自身を振り返ることができるようにする。
5	運動会 自分の力を出し切って、最後までやり切ろうとする態度を養う。		音楽「はくをかんじてリズムをうとう」 友達と一緒に歌ったり、体を動かしたりする楽しさを感じることができるようにする。	
6	学級会 児童、保護者、教師の思いを基に学級目標を決めるようにする。		体育「ボール蹴りゲーム」 きまりを守り、仲良く運動をしたり、協力して準備・片付けができるようにする。	
9	遠足 学年・学級の友達と共に自然散策やレクリエーションを楽しまうとする態度を養う。	「はしの上のおおかみ」 ・親切にしたときの気持ちよさを知り、誰に対しても思いやりの心をもって接しようとする心情を育てる。(道徳的心情)	生活場面で、児童の様子を観察し、友達に親切に接している様子が見られた場面や児童を紹介、称揚する。	
10		「ないちゃった」 ・たとえ自分は悪くないと思う時でも、相手の気持ちを考えて受け入れることで、お互いにより関係になることが分かり、身近にいる人への接し方を考えることで道徳的判断力を育てる。(道徳的判断力)		
11	学級会 学級の生活や係活動の様子を見直し、よりよい学校生活にしようとする態度を養う。	図工「うつしてあそぼう」 友達と、互いの作品の工夫や面白さを見つけることができるようにする。		
12				

## 5 本時の指導計画

### (1) ねらい

- 相手のことを考えて、優しく接することの大切さが分かり、親切な行為をしていこうとする態度を養う。  
(道徳的態度)

### (2) 展開

(主) 主体的な学びを促す手立て・(対) 対話的な学びを促す手立て

段階	主な学習活動・学習内容	教師の支援 (◇評価)	資料等
きづく (8分)	<p>1 価値についての意識を高め、話し合いの方向をつかむ。</p> <p>○ 優しくしてもらったことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>6年生に荷物を片付けてもらった。</li> <li>6年生に遊んでもらって嬉しかった。</li> </ul> <p>やさしくしたひとは、どんなきもちかな。</p> <p>2 教材「はやとのゴール」を読む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>誰かに親切にしてもらった経験とその時の気持ちについて出し合うことで、価値への導入を図る。</li> </ul> <p>「親切にされた方が嬉しいのはもちろんだが、親切にした方はどんな気持ちか」と、問い返すことで、問題意識を共有できるようにする。(主)</p>	
ふかめる (22分)	<p>3 教材について話し合い、価値について考える。</p> <p>(1) 思い切っておばあさんに声をかけた理由について話し合う。</p> <p>○ はやとさんが、おばあさんに思い切って声をかけたのはなぜでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>おばあさんが大変そうだから。</li> <li>手伝ってあげようと思ったから。</li> <li>放っておけないから。</li> </ul> <p>(2) はやとの行為や心情について話し合う。</p> <p>◎ はやとさんがしたことをどう思いますか。また、なぜそう思いましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>すごい。勇気を出して声をかけたから。</li> <li>優しい。おばあさんに優しくしたから。</li> <li>えらい。重い荷物を持ってあげたから。</li> </ul> <p>○ 自分だったら、はやとさんと同じようにできますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>できない。声を掛けるのが恥ずかしいから。</li> <li>できる。大変そうだから。</li> <li>迷う。助けたいけど、おばあさんに話し掛けるのが難しいから。</li> </ul> <p>○ おばあさんに親切にしたはやとさんは、どんな気持ちでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>いいことをしたから嬉しい気持ち。</li> <li>勇気を出したからすっきりした気持ち。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>おばあさんに声を掛けようか迷ったが、思い切って声をかけたのは、どんな気持ちがあったからか、その根拠について話し合うことで、困っている人を放っておけない、黙って見ていられない気持ちに気付くことができるようにする。</li> <li>主人公の行為のよさ(価値)について、多面的・多角的に捉え、道徳的諸価値についての理解を深めることができるようにする。</li> </ul> <p>自分だったらどうかについて考えを出し合い、ペアで話し合う場を設定する。道徳的価値を実行することの難しさと尊さを自分事として捉えることができるようにする。(対)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>親切にした主人公の心情を問うことで、相手を思いやることは、自分自身をも温かい気持ちにさせ、自分も嬉しくなることに気付くようにする。</li> </ul>	紙板書
みつめる (15分)	<p>4 自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深める。</p> <p>○ 6年生から、1年生を世話した際の感想を聞き、親切にすることのよさを知る。</p> <p>○ 誰かに優しくしたことはありますか。その時、どんな気持ちでしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>幼稚園で、年下の子に遊具を譲ってあげた時、いい気持ちだった。</li> </ul> <p>5 本時の振り返りを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>6年生の感想から、親切にしてくれた人の気持ちを知り、その行為のよさを実感できるようにする。</li> <li>はじめにもった問題意識と照らし合わせながら経験を出し合うことで、今後の生き方(生活)について考えることができるようにする。</li> <li>振り返りの視点を明らかにすることで自己の変容を自覚できるようにする。</li> </ul> <p>①本時で大切だと思ったこと ②これからのこと</p>	ワークシート

### (3) 評価の視点

- 思いやりの心で接することのよさを自分事として捉え、考えを深めることができたか。